

デジタル生活の見直し

定額サービスの請求

共働きのAさんは、スマートフォンやパソコンなどのデジタル機器を積極的に利用しています。週に1~2回食料品を買い足すために近所のスーパーを利用する以外は、インターネットショッピングに頼る毎日です。時間に追われる中、決済用クレジットカードの請求明細に目を通す余裕もなかったAさんですが、ある企業から毎月決まった額が引き落とされていることに気がつきました。久しぶりにアカウントを確認するとプレミアム会員登録がされています。お試し感覚でプレミアムサービスを利用したものの、無料期間が過ぎて定額料金が発生していたのです。



アカウントの見える化と整理

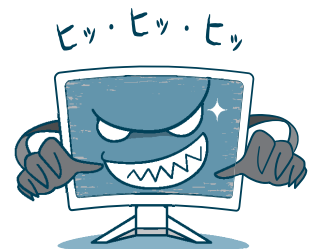
ネットサービスを利用する時には、IDとパスワードの設定を求められることが一般的です。これをサービス利用の権利、「アカウント」といいます(IDとパスワードの組み合わせを指すこともある)。利用サイトが増え、管理できない状態になっていたAさんは、この機会にアカウントを整理することにしました。ショッピング、金融、旅行を含めた趣味に関するオンラインサービスは予想外の多さです。さらに、インストールしたまま利用していないスマートフォンのアプリやソーシャルネットワークワーキングサービス(SNS)にもアカウントが設定されています。これらをすべて洗い出し、頻繁に使うもの、たまにしか使わないもの、使っていないものなどにグループ分けした上で、使わないサービスは思い切って退会することにしました。



アカウント放置の危険性

アカウントには、住所・氏名、決済用のカード番号など、重要な個人情報が保管されている場合があります。長期間放置されたアカウントからこれらの情報が流出し、他人がその人になりすましてサービスを利用するなど、ネットの安全性が脅かされる事態が発生しています。複数のサイトでIDとパスワードを使い回していると、被害はさらに拡大します。また、SNSのアカウントが盗まれた結果、本人が知らないところで悪意のメッセージが配信された例もあります。

オンラインサービスの利用明細は必ず確認し、アカウントは定期的に見直して不要なものは退会手続きをするなど、デジタル生活を安全かつ安心なものにできるかどうか、利用者の姿勢が問われています。



STEP UP!

アカウントの整理に欠かせないIDとパスワードは、設定者しか知りえないよう厳重に保管すべきです。しかしコロナ禍の今、もしもの時の備えとして、これらの情報を託す相手を決め、伝えておく必要性も高まっています。